



まちづくりの拠点施設「どんでん館」

残暑なお厳しい8月22、23日両日にわたり愛知県犬山市、岐阜県高山市を視察した。ともに歴史と伝統、自然豊かで風光明媚な観光地として年間通して400万人を優に超える人々が訪れる所だ。

オンリー“わん”独自施策でリードする犬山市は「木曾の流れに古城が映え、ふれあい豊かなもりのまち 犬山」を総合計画のゴールイメージにしている。

観光予算は3億1800万円。犬山城、木曾川の鵜飼は特別会計だが、

経済水道委員会

委員会の活動報告 ―2委員会の行政視察を報告します―

しかし、課題も大きいようだ。道路などの段差対策や車椅子トイレの設置、外国人観光客が安心して一人歩きできるまちづくりなど、ユニバーサルデザイン“化と国際化を進めることだという。

観光客を温かく迎えることは、地域に住む人々が安心して安全にそして豊かに過ごせることにもつながるものだ。どれもがもう一度行きたいと思える観光地には、そのようなきめ細かいまちづくりの側面もあると気づかされた。



馬路村の名を全国に広めた開発商品

去る10月19日、20日に高知市と馬路村を視察した。高知市では行財政改革・市民意見提出制度（パブリックコメント）・住民参加型ミニ公募債「高知市龍馬債」について、馬路村では地場産業（ゆず製品）の振興による財政効果・地域振興（馬路村PR特別村民制度）について視察した。

高知市は人口約32万7千人、観光と農業が主な地場産業。第三次産業に偏った就労構造で、財政基盤が弱いとの説明があった。「時代に求められる新しい高知市役所を目指して」の理念のもと、事務事業の見直し・民間委託の推進・定員管理と給与の適正化・財政

総務文教委員会

運営の見直し等を掲げて、16年度より改革を推進している。

しかし、目標に近づいてはいるものの、社会資本整備や台風等の災害対策、競輪・競馬事業の赤字が響き、公債費負担率が約28%と大きく、特別職10%、一般職5%の給与カットで対応する厳しい財政運営だった。

パブリックコメントは平成16年に始まり、当初は多くの意見が寄せられていたが、住所・氏名を明示する規則のためか最近ほとんど無いという。また、「龍馬が生まれたまち記念館」の建設等に充てるため発行した「龍馬債」は年々購入者が減り、市の財政負担が増えるため、見直すとのことであった。

馬路村は人口1127人、山間部の小さな村だが、「ゆず香る杉と温泉のふるさと」をキャッチフレーズに村を売り出し、Ｉターン等の若者が増え、交流人口も増加し、活気にみぎづいてきた。

ゆず製品の通販顧客は35万人。順調に業績を伸ばし、収益は様々な形で村に寄付をしており、村の財政は極めて健全であった。特別村民制度は、1900人が登録し、内243人が来村。創造力と人の絆、そして何より村を愛する心の強さが合併を望まず、全国に馬路村の名を広めている。

この視察を今後の市政に生かして、市民の福祉向上に努めたいと決意も新たにされた。

車等放置防止条例を視野に入れ、現在条例の制定について検討を行っている。

（市長）

剣持 堅 吾

救急医療施設について

【問】現在計画している施設の姿を市民に周知する必要があると考えるがどうか。救急医療施設という言葉が先行しているが、応急医療施設が現実的ではないか。設置目的、施設の内容を市民に周知したら、施設の姿が見えてくるのではないか。施設の第1期計画は、平成19、20年度で設置するとなっているが、合併特例債を活用するの。建物の規模は適切か。敷地はすべてを医療施設に利用するか。また、第2期計画以降の見通しはどうか。

施設は「公設民営とする」とある



専門医による子どもの相談

が、公・民の境界がいまいちとなることから、検討する必要があるのではないかとこの施設を実現するには、医師会の協力が不可欠である。医師会に誠心誠意お願いし、是非実現願いたい。

【答】この施設については広報紙等により市民に説明し、全世帯を対象としたアンケートも考えたい。施設の名称については、休日・夜間急患センターが一般的である。財源については、合併特例債が活用できれば有利であるし、助成金があったらより努力したい。建物の規模についてはさらなる充実を図るとともに、敷地は有効に活用したい。

松浦 政 利

救急医療施設について

【問】総合病院の誘致は断念したのか。断念したのであれば、その理由と責任を市民に説明するべきではないか。休日・夜間急患センターの建設についての医師会との協議状況はどうなっているのか。中間報告によれば夜3時間のみの診療であり、選挙公約である24時間体制とはほど遠い。救急車も受け入れない施設なら、広いユニチカの地に建設する必要はない。

に、敷地は有効に活用したい。

公設民営の考え方については、建物は公設で建設し、運営は指定管理者制度等を活用し、責任をもって運営していただくよう努めるが、慎重に精査し、市の負担が極力少ない方法を考えていきたい。中間報告に書いてある対策については、これをさらに充実していきたい。

（市長）

財政の硬直化について

【問】財政指標として実質公債費比率の

【答】総合病院誘致の可能性が低くなったことから、24時間体制の救急医療拠点施設を整備すると昨年の選挙時に説明したが、さらに広報紙を通じて説明したい。現在示している休日・夜間急患センターでは、「もっと充実したもの」との声が多いことから、さらに検討したい。医師会とは何度も交渉しており、精力的にこれに当たりたい。

（市長）

傍聴できます 本会議

定例会市議会、年4回開かれています。この本会議はどなたでも傍聴することができます。皆さん是非、傍聴ください。次は12月に開かれます。

【答】実質公債費比率は、起債制限比率に特別会計の返済額を上乗せしたもので、上下水道や都市基盤整備を実施した団体ほど比率が高くなっている。財政は裕福な状態ではないが、借金も前年比で約9億円減っている。今後一層好転させるよう努力したい。地方交付税への算入額については、美袋規線の橋を例にとると、計算上は4260万円であるが、実際交付された概算額は1880万円（約44%）、約2400万円が算入されていない。

（市長）